

## 日本語センターの賃金を上げるための署名への取締役からの回答

---

2020年2月15日

2020年2月1日に「日本語センターの賃金を上げるための署名」の署名書類とその行動への説明というメールを一部の保護者の方々から頂きました。取締役よりこの署名活動に対して、回答文という形でお伝えしたいと思います。

まずその署名文を読ませて頂きます。

「モントリオール日本語センターの先生方に正当な賃金を払おう！少なくとも最低賃金を！先生方は毎週2時間半分(x 初任給 17\$)のお給料しか支払われていません。カリキュラム・教材の作成・調達・その他準備、保護者への報告メール、運動会・発表会などの特別行事の準備・参加など、これほど多くの授業外業務することを求められています。(当事者コメント：これについては、途中である保護者の方に「運動会の日の手当ては出ている」とご指摘いただいたので、この辺を途中から消しました)

また、慢性的先生不足のようなので、せめて最低賃金を払うようになれば少しでも多くの候補者が集まるのではないかと思います。(現在の授業料はほかのお稽古事に比べてとても安いので、授業料を少し上げてもいいと思います。(当事者コメント：子供のバレエも同じく1 Semester 10 クラスくらい、1時間なのに200\$くらいなので)

授業料が上がったら通えなくなってしまう人には上げない、もっと頻繁にファンドレージングをするなど方法はきっとたくさんあります。学校存続のために、先生、アシスタント、運営委員の方々全員にちゃんとお給料を払いましょう！この考えに賛同される方は、以下に署名をお願い致します。)」

こちらの日本語での署名文章以外にも英語とフランス語での文が入っていましたが、省略させていただきます。

まず、こちらの署名ですが時間を要す大変な作業であったかと思えます。こちらをまとめてくださった方の行動力とセンターへの熱意に感謝しております。

次に、今年度から取締役が作られ運営体制が新しくなりましたが、これからは教員の賃金や労働サポートなどを考える事も重要な項目の一つであるという姿勢で現取締役全員が話し合いに臨んでおります。

ただそれ以外にも、今までの赤字を解消し、長期で安定した経営を固めるなどの課題があり、今すぐに対応となりますと今後さらなる財務の複雑化が予想されます。現在できることとしては教員の賃金も含めた全ての項目の協議、そしてこの署名に関しての先ずの対応は教員の意識調査かと考えています。

また今回のこの署名に関する説明、署名文章の途中の修正などからもセンター運営への誤解もあるのではないかと感じております。しかし、ここまで熱意のある皆様なので、運営・取締役と同様にセンターの運営向上、もしくは当人方が思われる賃金の値上げなどに取り組んで頂ければ、誤解や今回の教員の意識調査等なくして、効率の良い活動が出来るのではないかと思います。

また、意見やセンターへの貢献を考えていらっしゃる方々は、運営体制の変更後に明確にした「会員」という方法があり、基本的には会員の意見を汲みつつ運営方針を決めていくのが取締役の存在であります。会員は年次総会にも出席でき意見もできるので、今後はここに署名された皆様は正面玄関からセンターの為に行動していただければ更に組織の成長に繋がるのではないのでしょうか。センターへの熱意を実際に反映できる形での参加をぜひお願いしたい意向であります。

モンリオール日本語センター

取締役一同